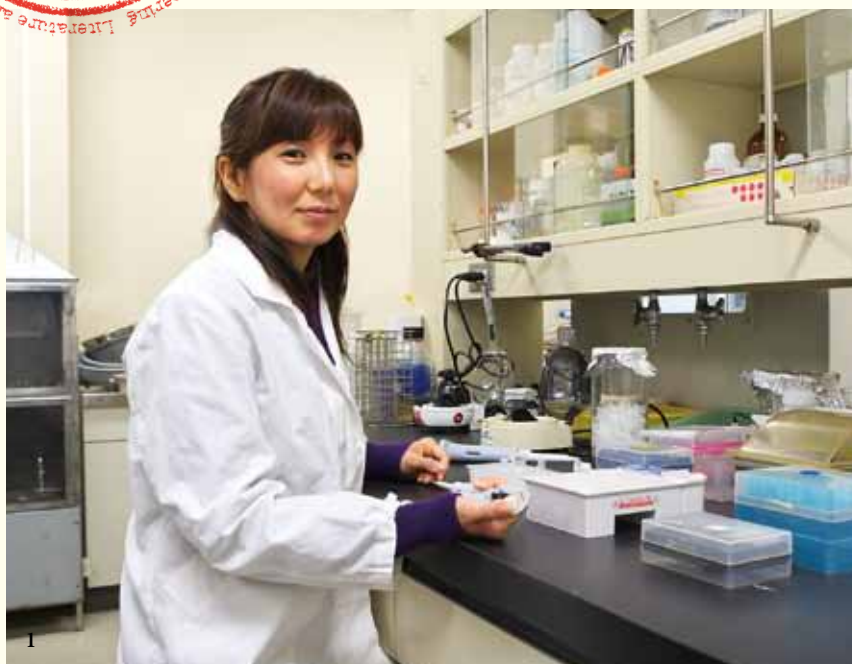


# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。

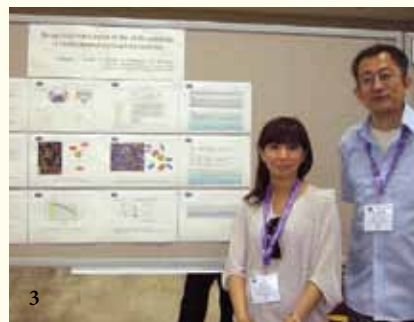


1 大谷先生の研究室で学んだ大学時代そのままに実験を楽しみ、研究に励む宮城さん。後輩学生たちの協力を得ながら、ここでしかできない実験にも取り組んだ。



2

2 宮城さんが勤務する住友ゴム工業はタイヤメーカー。いつの日か宮城さんが取り組んでいる天然ゴムの研究から画期的なエコタイヤが誕生するかもしれない。



3

3 恩師である大谷先生と国際学会でのツーショット。今回の共同研究も大谷先生の提案により実現した。今後も情報交換を密に互いの研究を進めていく予定だ。

## 生命の神秘とモノづくりへの興味が原動力、 母校での共同研究の成果を次世代に生かしたい。

共同の成果

宮城ゆき乃 研究員

高校時代に行った化学実験が楽しかったこと、生命の巧妙なメカニズムに感動し生命体に興味を持ったことから理系への進学を決めたという宮城さんは沖縄県石垣島の出身。希望する物質生命化学科があったことと、大学の4年間くらいは北国で過ごしてみたいの思いから進学先として山形大学を選んだという。気候や食文化等に少なからずカルチャーショックを受けながらも、学業や映画研究会でのサークル活動、家庭教師のアルバイトに励み、3年間は穏やかな学生生活を過ごした。4年生で研究室に入ると俄然、研究が楽しくなり、就職の内定をもらっていたにもかかわらず、東北大学大学院生命科学研究科への進学を決意。大学の4年次と大学院での修士課程、博士課程のトータル6年間は、実験・研究漬けの日々だ

ったという。

現在は、住友ゴム工業株式会社に勤務し、新規バイオ事業の中核研究員として、地球に優しいタイヤづくりをめざして遺伝子レベルで天然ゴムの研究を行っている。昨年から1年間は、JST(科学技術振興機構)予算で母校である山大理学部との共同研究に従事。恩師であり、天然ゴムに関する研究が専門でもある大谷典正先生の研究室で話し合ったり、後輩たちと共に実験を行ったりしてきた。大学と企業、それぞれの特性を生かして産学連携ならではの研究成果を上げることができた。宮城さんが任期を終えて会社に戻った後も大谷先生とは連絡を密に取り合っており連携は継続している。まだまだ研究段階で、商品開発や製品化はずっと先の話だが、いつの日か環境にやさしく、性

能的にも優れた天然ゴムだけのタイヤが実現するかもしれない。それは、生命のメカニズムをものづくりに生かしたいと研究者をめざした宮城さんの念願でもある。

さまざまな職種への女性の進出がめざましい昨今、企業や大学等でも女性研究者が活躍できる環境整備に取り組み始めているもののその数はあまり増えていない。そんな中、職場に恵まれたこともあって女性研究者として果敢に研究に挑み、活躍している宮城さんの姿は後進の励みであり、憧れでもある。本学や東北大学からの依頼で男女共同参画に関する講演を行ったほか、理学部サイエンスセミナーで講義を担当する等共同研究以外でも母校に貢献。今後も宮城さんの多方面にわたる活躍に期待したい。